

第2回 明治大学・川崎市 黒川地域連携協議会 議事要旨

- 1 開催日時：平成29年3月23日（木）15:00～16:30
- 2 開催場所：明治大学黒川農場 第1階会議室
- 3 出席者：[会長] 針谷農場長
[委員] 佐倉委員、藤原委員、小清水委員、山崎委員、市川委員、梅澤委員、向坂委員、柏井委員
(欠席) 松原委員、杉山委員、草野委員
(代理出席) 中川委員（福井委員の代理）、菰澤委員（山田委員の代理）
[事務局] 農産物等研究専門部会 農地課 松川課長、古山係長、小川主任
地域活性化検討専門部会 企画課 井上課長、山中係長
里地里山保全利活用専門部会 みどりの協働推進課 池田係長
コンサルタント（株）UR リンケージ 牧野
- 4 議事：
平成28年度の取り組みについて、各事務局より説明。

《各専門部会の取り組み》

【農産物等研究専門部会】

- ・農1「大学と農家の意見交換会」と農3「殺虫剤農薬抵抗性に関する講習会」は他との同時開催を検討したが日程調整がつかず、次年度以降に再検討することになった。
- ・農2「アスパラガスの『採りつきり栽培』の実施」については、明治大学元木先生の協力のもと行っており、12月に明治大学生田校舎のほ場の視察、1月に黒川生産支部との共同開催で栽培講習会を開催し、3月には植付け講習会にてアスパラガス苗を配布した。収穫は来年の4月以降になるためこの事業は来年度も継続して行う予定。
- ・農4「農産加工品に関する検討」については、小清水先生とJAの「ふるさとの生活技術指導士の会」の柿生支部の方々で意見交換会を行うことで調整してきたが、日程調整がつかず、今年度中の開催は困難となった。
- ・農5「黒川野菜・果物等のPR」については、昨年からは黒川農場の収穫祭で黒川産の野菜、果物、たまご等を販売することを始めた。今回は天候不順により荷が集まらなかったが、それでも14品目660点の販売を行った。黒川産農産物のPRのため今後も継続して参加し、明治大学にも協力をお願いしたい。

【地域活性化検討専門部会】

- ・地1、地2の「サインの検討・試行」「散策マップの検討・試行」については、昨年度同様、屋外アート展示「サトヤマアートサンポ」の中で試行した。散策ルートマップについてはアンケートのなかでわかりやすかったとの評価が多かったため、今後も皆様のご意見をいただきながら試行していきたい。
- ・地3「里山景観づくりの検討・試行」は専門部会の中で検討を行った。具体的な活動はなかったが、今後も引き続き、地元の意見をいただきながら検討を行っていく。
- ・地4「HP等によるPR」については、イベントの結果や審議状況、イベントPR等について麻生区のホームページに掲載した。また収穫祭の際に、黒川連携協議会の取組み等についてパネルの展示やアンケートを行った。
- ・地5「グリーンツーリズム」のトマト・ブルーベリー収穫体験については、20～30代の若い世代の方々を対象として7月30日に実施した。参加者20名からは、収穫した野菜を調理した写真を提供いただき、それをツイッター等に掲載し黒川産の野菜の魅力を発信した。また、じゃがいもの収穫体験については同様のイベントが各所にあるので、差別化も含めて検討を行っていく。
- ・地6「竹炭シンポジウム」については、9月14日に黒川農場にて実施。炭化炉を使った竹炭作りのデモンストレーションとシンポジウムを開催した。長時間のイベントだったが100名以上の参加があり、マスコミ等にも取り上げられた。
- ・地7「菜の花プロジェクト」は区役所と「かえるプロジェクト」という団体が協働で行っており、黒川農場をお借りして栽培した菜の花から取れた菜種を搾油し、その油を使ってクッキー等商品の開発を行い、収穫祭で販売した。本年度は86kgの菜種が取れて、25kg搾油できた。これまでの、黒川、古沢、早野のほ場に加え、今後は栗木、東百合丘、岡上、金程小学校でも栽培していく予定。
- ・地8「サトヤマアートサンポ」については、昨年度と同様に和光大学表現学部と連携して2週間程度、農地に作品を展示した。明治大学の収穫祭と「緑と森の美術展 in 黒川」と日程を合わせて開催したため、タウン誌を初め新聞各誌で大きく取り上げられた。

【里地里山保全利活用専門部会】

- ・里1「竹あんどんづくり」は黒川地区の竹を活用し、地元小・中学生とともに竹あんどんづくりを実施。黒川竹行燈の会と連携しながら収穫祭の当日である11月12日に農業用管理倉庫にて、参加者子供8名、保護者8名で開催。参加者からは、「小学校低学年でも参加できるイベントの開催」や「大人向けの竹あんどんづくり」の要望があった。アンケートで好評であったため次年度も継続したい。今年度は参加者が少なかったため、募集範囲を麻生区全域に広げるなどして周知方法を検討していく。
- ・里2「里山保全活動体験」は里山での保全活動体験を行い、里山の保全活動の担い手づくりにつなげるイベントを開催。地元農業者団体「黒川緑地管理協議会」にご協力いた

だき、地元住民を対象として2月19日に黒川よこみね緑地で実施した。参加者は9名。参加者からは、「普段は出来ない体験ができて楽しかった」「林がきれいで明るくなって風景が楽しめるように感じた」等ご意見があった。今回は手鎌を使ったため、女性や子供でも手軽に参加できた。反省点としては、参加者とスタッフとの交流ができる場が少ないことや参加者が少なかったことが挙げられていたため、改善したい。

平成29年度の実施計画(案)について、各事務局より説明。

《各専門部会の実施計画》

【農産物等研究専門部会】

- ・農3を「農作物に関する講習会の開催」に名称を変更し、農1の「大学と農家の意見交換会」も含め、他との同時開催を検討。特に農3については、品種比較、土づくり、病害虫の防除等、栽培に役立つ講習を明治大学や神奈川県などと連携してやっていきたい。
- ・農2の「アスパラガスの『採りつきり栽培』の実施」については、来年の今頃から収穫が開始されるので、それに向けて巡回検討会や病害虫講習会の実施し、また、来年度以降の苗の供給等を検討していく。
- ・農4「農産加工品に関する検討」については、例えば明大の学生さんにスイーツなどのレシピ等を提案してもらって、学生達と連携して、収穫祭やセレサモス、明大の購買部などで販売することを目標としてはどうか、との意見が出たため、学生との連携を含め、さらに専門部会で検討していくこととした。
- ・農5の「黒川野菜・果物等のPR」については、例年通り黒川農場の収穫祭で黒川産の野菜、果物、たまご等を継続して販売させていただくこととした。地元と農場で、お互いに販売する農作物を調整した方が良いのではないかとの意見があったため、今年は農場の方と調整させていただきたい。

【地域活性化検討専門部会】

- ・基本的には平成28年度と同じような形で進めさせていただく。
- ・「サインの検討・試行」「散策マップの検討・試行」はこれまで2つの項目になっていたものを1つにさせていただいた。また、今年度、竹炭シンポジウムは来年度行う予定がないため、削らせていただき、6つの項目となる
- ・「里山景観づくりの検討・試行」については、レンゲを播いてはという意見があったが、進め方も含め、地元の皆様のご意見を聞きながら検討させていただきたい。
- ・その他の項目についても地元の皆様、明治大学、JAの皆様のご協力のもとに成り立っている。引き続き、意見交換会や専門部会でご意見を伺いながら実施させていただきたい。

【里地里山保全利活用専門部会】

- ・今年度と同様に里1の「竹あんどんづくり」と里2の「里山保全活動体験」の2つを実施する予定になっている。
- ・内容についてもほぼ同様で、「竹あんどんづくり」については、収穫祭当日に実施。ただし、参加者を多く募るよう工夫したい。「里山保全活動体験」については、まだ場所や手法は未定だが、保全活動の体験を何らかの形で実施したいと考えている。

《主な意見》

① 収穫祭における自動車の駐車場の対応について

- ・明治大学だけでなく皆様にご協力いただきたい。
- ・誘導するボランティアがいれば歩道に縦列駐車できるのではないかと。町内会でも協力したい。

② 学生との協働について

- ・農産物等研究専門部会で学生の話が出たが、特定の研究室に限らず活用してもらいたい。

③ 里地里山保全利活用専門部会について

- ・里山保全活動体験をした人がリピーターになる工夫が必要。
- ・イベントの参加者が1桁なのは寂しいので、募集を頑張ってもらいたい。
- ・竹あんどんの会の活動が活発であり、町内会でも助成金を出している。

④ 農産物等研究専門部会について

- ・加工品は農場だけで原材料が揃わないので、農業者との連携が重要になる。
- ・アスパラガスの鮮度を維持する方法がわかっているので、お教えしたい。
- ・アスパラガスの採りっきり栽培で明治大学の新技术を知ることが出来て良かった。
- ・思ったより多くの方がアスパラガスの苗を植え付けてくれたのには驚いている。

⑤ レンゲについて

- ・協力をしたいと思うが田植えの時期が早くなっているので、難しいかもしれない。

⑥ アンケートについて

- ・アンケート結果が非常に参考になった。この結果を活用したいと思う。

《今後の予定》

- ・来年度も協議会については、8月の下旬と3月の下旬の2回、専門部会も2回程度開催する予定。明大農場の収穫祭は例年11月の第2の土曜日の予定。